



平成23年度 北中物語第20号
 平成23年10月4日発行
 文責:校長 中村 裕子
 校長mail yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

**25年の果てなき挑戦、今ここに在り、「THE 北中団」！！
 ～ 25年後のゴールも目指して～**



保護者の皆さま、体育祭では、大変お世話になりました。たくさんの方々にご来場いただき、一同、やりがいをもって当日を送ることができました。特に生徒たちは、本当によくやりました。誰一人力を抜いた者はおられません。若者の一生懸命な姿は美しく、私たちに勇気を与えてくれました。きっと、保護者の皆さまも同じようなお気持ちであったと思います。

運動が大好きな生徒もいます、運動が苦手な生徒もいます。しかし、北中体育祭は運動のできばえを狙っているわけではありません。得意でも不得意でも「何かを乗り越えたあとの自信」を獲得することを狙っての行事です。この狙ったことを獲得できたかどうかは、今後の生徒たちの姿に表れることでしょう。どうぞ、今後にご期待ください。

私たち教職員一同は、本日、さらに高き北中を求めて始動しました。

皆さま、さらにご支援ください。

「喜び」

二十五目の秋 二十五回目の感動 二十五回目の体育祭
 幾多のドラマをつくり 幾多の文化を創りあげた

私たちの誇り 北中体育祭

今 私たち六三三の輝く個性は 「北中団」となり ここに集結しました
 私たちの目指すものは 北中学校の全体美
 私たちの目指すものは 北中生の澁利美

私たちは 先人たちが残した北中魂を受け継ぎ

「瀉」となつて 白いテープのその向こうへ 駆け抜けます

体育祭 バンザイ！ 北中バンザイ！

平成二十三年輝く秋

生徒代表

三年

青山 亜紀
 宮下 和樹

忙しいけど・・・

どなたの身の回りを見ても「忙しい状態」であふれかえっているように思えます。大変な時代になったものです。そんな中、子育てに関して「忙しかったのでつい忘れて・・・」「忙しくてできませんでした」という言い訳が先行してはいないでしょうか。(失礼があったらお許しください。)確かに忙しい日々ではありますが、子どもの成長は「忙しいから」という理由を聞いてはくれません。私は633人の子どもを学校という場で預かるものとして、「忙しいのですか、それでは仕方ないですね」とか「忙しいのですか、それでは、子どもに成長を待ってもらいましょう」とは言えません。なぜなら、子どもたちにとっては、「その時は、一度しかない」からです。「忙しい」を免罪符のように振り回し、子どもたちへの関わりで大切なことをなおざりにしたり、後回しにしたりすることがあっては取り返しがつかないこととなります。このことにかかわって2つの話をさせていただきます。

1つ目は、20年ほど前、北中学校に勤めていたときの話です。中学校3年生の女の子がいました。ご両親は忙しく働いていました。決してそれが理由ではありませんが、その子は不登校になり、どうしても学校に来られなくなってしまいました。でも何とか卒業証書を自分の手でもらえるよう、学年教師が一生懸命後押ししました。そして、立派に卒業式に参加し、証書を持って挨拶に来ました。そこでの話の中で、「休んでいても、友だちがみんな優しい言葉をかけたり励ましたりしてくれた」と言っていました。そしてそれを聞いていたお母さんが寂しそうに次の一言を發しました。その一言とは、「小さい頃からもう少し子どもと話をすればよかった、そして、この子を不登校で苦しめなかったかもしれない・・・」というものでした。不登校の原因がそこにあったわけではありませんが、お母さんは、このように悔いているのです。

皆さん、忙しいから、忙しくてできなかった、というのではなくて、忙しいけど何とかがんばった、という方向に向かわなければならないと思われませんか？忙しくてでもできることはあるのです。子育てに勝る忙しさはないということなのです。

2つ目は、ずいぶん前の話になりますが、旅先(外国)のバスの中での出来事です。私と同行していた友は、バスに乗り合わせた女の子が、バッグの目印に付けていた日本の人形をたいそう気に入ったようだったので、その子にその人形をあげました。その子の母親は、その子に「お礼を言いなさい」と諭していますが、その子はなかなか言いませんでした。そうこうしているうちに私たちは途中で降りることになり、その親子に別れのあいさつをして降りました。そしたらどうでしょう、なんと、私たちに続いてその親子が降りてきたのです。そして母親が私たちに言いました。「今からありがとうございますから、聞いてあげてください」と・・・。

きっとその子は、私たちが降りるのを知って「ありがとうございます」と母親に告げたのでしょう。ほとんどの場合、そこで終わりですが、この母親は、目的地ではない停留所で降りてまで、子どもの「お礼を言いたい」という思いを実現させたのです。はて、この母親の行動、私たちにはできるのでしょうか。時間よりも優先させるべきことがある。それは「子育て」であることを旅先で思い知りました。

「忙しい」は子育て手抜きの言い訳にはならない・・・

